

# Career Path Image

大臣官房  
広報室長  
**小川 康則**  
Yasunori Ogawa

## これまでのキャリアを振り返って

意外に思われるかもしれませんが、総務省に入省することは、ずっと総務省で働き続けることを意味しません。各府省に出向し、地方自治体に赴任し、国際機関に勤務し、さらに民間企業と交流する機会が、キャリアパスの随所に織り込まれます。「それでは、スペシャリティのない根無し草になってしまうのではないか。」と不安に思う方もあるでしょう。しかし、実は逆なのです。自らの専門領域にウチとソトの双方から関わる経験を重ねることで、知見や経験が立体的に構築され、しっかりした「軸芯」が定まるのだと考えています。

今年で入省25年。多くの職場で、多くの仕事に携わってきました。顧みれば、一つの達成によって、次なるステージへの展望がずっと開けることもあれば、いったん頓挫した取組みが、後に思わぬ場面で活きることもありました。こうした「次につながる」感覚こそが仕事の醍醐味でしょう。総務省を目指す皆さんに、その一端をお伝えしたいと思います。

### ■ 1991～1992 広島県地方課主事

4月に自治省(当時)に入り、早くも7月に広島県庁に赴任。まず現場からスタートする伝統のキャリアパスです。決裁書の書き方、会議の設営の仕方、ツケでお酒を飲む方法など、社会人の基礎はすべてここで学びました。国と市町村の間を取りもちながら、「優れたアイデアでも、現場でうまくワークする仕組みに落とし込まれていなければ、良い政策とは言えない」と実感したのもこのとき。これは、職業生活を通じた問題意識になっています。

### ■ 1993～1996 行政局行政課主査

この頃、地方分権の気運が急速に高まり、「地方分権推進法」が成立。その後の第一次地方分権改革を方向付けることとなります。私は担当課の末席として法案化に携わりました。当時は条文を練り、内閣法制局の審査をパスすることで精一杯でしたが、いま顧みれば、「国のかたち」を変革しようとする政治のダイナミズムの真ただ中に身を置いていたのです。20代半ばでこんな経験ができるのも、霞ヶ関勤務の大きな魅力でしょう。

### ■ 1996～1998 2000～2002

### 札幌市調整課長 京都府地方課長

社会人6年目で初めての管理職に。我が国の経済低迷が鮮明となり、市でも行政スタイルの転換が急務となっていました。まだなじみの薄かった「PPP」や「PDCA」を市政に組み入れたのがこの時です。

その後、国税庁への出向を経て、京都府庁に赴任。全国で「平成の大合併」が進んでいましたが、府内には根強い慎重論が。カネだけでなくヒトに着目して市町村合併の効用を示したり、合併後の地域自治組織の在り方を提言したりと、独自の「京都方式」を編み出しました。

### ■ 2003～2004 内閣府経済財政諮問会議事務局 参事官補佐

小泉総理－竹中経財大臣が率いる経済財政諮問会議の事務局へ出向。「骨太の方針」や郵政民営化の青写真づくりに携わりながら「政治主導」を間近で見聞し、我が国の政官関係が大きく転換したことを実感する毎日でした。各府省出向者で構成される事務局は、いわば「国内の国連」。それぞれの主張と流儀を尊重しながらも、国としてあるべき方向を見出していく仕事術を体得しました。

### ■ 2004～2007 自治行政局行政課理事官

8年ぶり2回目の行政課勤務。今度は「道州制」に関する答申を仕上げ、第二次分権改革に向けた「地方分権改革推進法」の立案を手がけました。先述の第一次分権の結実と市町村合併の進展が、広域行政体制の刷新を問題提起し、一層の分権改革を求めることとなったのです。ある先輩が記した「改革が新たな課題を呼び起こし、その課題がさらなる改革を求める」という政策循環を実体験した時期でした。



### ■ 2009～2011 岡山県総務部長

大臣官房秘書課で人事・採用を担当した後、40歳で岡山県総務部長に。予算や人事を担当する県庁組織の要です。既に緊縮型の県政運営を行っていたところに、リーマン・ショックが襲った困難な環境。職員マインドが「貧すれば鈍する」に陥らないよう腐心しながら、人事評価制度の改革や業務のアウトソーシングを進めました。最近、かつての同僚から財政再建目標を達成したとの報告がありました。連綿たる努力が実を結び、感慨もひとしおです。

### ■ 2011～2014 自治行政局行政経営支援室長

私が働き始めた頃、「権限は少ないが、職員は多い」のが地方自治体でした。その後、分権改革が進む一方、職員は行政改革によって50万人減少し、いまや「権限は多いが、それを担う職員が足りない」状況に。こうした構造変化を直視し、仕事のやり方を根っこから変えなければ、行政サービスは保てないのではないか。――こんな問題意識の下、じっくり腰を据えて、ワークプレイス改革、行政の実効性確保、標準化による業務改革などを打ち出しました。

### ■ 2014～現在 大臣官房広報室長